

16th China-Japan-Korea Joint Conference on Geography 参加報告書

広域システム系 人文地理学研究室D1
大西健太

2024年10月11日～14日に中国延辺大学にて行われた16th China-Japan-Korea Joint Conference on Geographyに参加した。今回は「Do the Spatiotemporal Transformations of Spin-offs Differ by Origin Firms? - Focusing on Five Japanese Animation Production Companies.」という内容でポスター発表を行った。

本国際会議は地理学に関する研究を自然地理学から人文地理学まで網羅的に取り扱っている。日本・中国・韓国の若手研究者の学術的な交流を目的としたものであり、各国の院生等が多く参加している。本会議は昨年から参加しており、経済地理学の分野からアニメ産業に関する研究発表を行ってきた。以下、会議中の内容と感想を示す。

11日に延吉の空港に到着し、大学側が用意したバスに乗り込み琿春に移動した。北朝鮮との国境を横目に見ながら100分ほど揺られ、初日の開催地であるホテルに到着した。初日は歓迎パーティーに参加し、去年交流した海外の学生や教授と交流をおこなった。

翌12日からは一般研究発表がはじまった。研究発表は延辺大学琿春キャンパスにて行われた。ポスターは4階の廊下に掲示され、それぞれが自由に観覧するスタイルであった。今回の発表ではコアタイムがなかったことから、十分な議論をする機会が得られなかったことが悔やまれるが、それでも様々な意見を得ることができた。私の発表は、ポスター発表であるが実は別の発表を行う機会を得ていた。本会議は、日中韓の間で開催地を輪番で回している。去年は韓国のソウルで行い、今年は中国で行ったため、来年度は日本開催である。オリンピックの閉会式のように、本会議の閉会式においても次回開催国の有志が発表を行う。私はそれを引き受けた。次回は京都で開催するため、立正大学院生の本多氏と二人で漫才形式の発表を行った。文化的な差異があるため、ネタ作りは難航したが、無事笑いと重要事項を参加者に届けることができた（気がする）。

本学会は、若手が中心の学会を想定しており、そろそろ代替わりである。今後も若手地理学者の交流の場として多くの人を呼び込み、活発な議論を行えるよう助力したい。

最後に、この度の様々な経験は本助成に採択いただいたおかげです。この場を借りて、厚く御礼申し上げます。



ポスターと発表者



東京大学人文地理学研究室から参加した3人



京都を紹介するために漫才をする2人